

特集 地域特産作物

Ⅱ い【産地の取組】

熊本県のいぐさ産地における取組み

熊本県農林水産部生産局農産課

1 はじめに

熊本県のいぐさの作付面積は、全国の9割強を占めており、国内の畳表生産のほとんどはこの熊本で生産されています。

(参考：農林水産省大臣官房統計部発表 平成26年度畳表生産量 主産県計3,670千枚、うち熊本県計3,620千枚)

これまでいぐさ・畳表の主産地は、岡山～広島～熊本と遷移してきており、熊本県内でいぐさ栽培が始められて500年以上が経過しています。

この長い歴史の中で熊本県の「い業」は郷土の誇れる伝統産業となり、熊本県の基幹作物の一つにもなっています。

畳は、いにしえから我が国の自然、風土の中で育まれてきており、華道や茶道などの日本古来の伝統文化の形成に深くかかわるなど、長い間、日本人の生活様式を支えてきました。

しかし、生活スタイルの変化や不況の影響による日本国内の畳表の需要減少や、中国からの輸入等から、生産農家や作付面積が大幅に減少するなど、厳しいものがありますが、近年の環境問題に対する消費者の意識の高まりなどから、芳香によるリラックス効果や二酸化窒素等の有害物質の吸着といった、いぐさ、畳の持つ環境浄化機能が見直されており、再び国産畳表の需要の高まりも出てきています。

このため、産地では産地維持のため、県育成のオリジナル品種「ひのみどり」「夕風」「ひのはるか」の3品種を育成するとともに、新たに「涼風」を育成し、県産ブランド畳表の生産拡大を主な柱とし、構造改革を進めているところです。

この他、いぐさ・畳表の優れた機能や様々ないぐさ製品等について消費者や実需者に対するPRを進めるために、各種イベントなどを開催し、広

く周知を図っています。

ここでは、熊本県の産地の現状をはじめ、いぐさ・畳表に関する本県の取組みについて紹介します。

2 産地の現状について

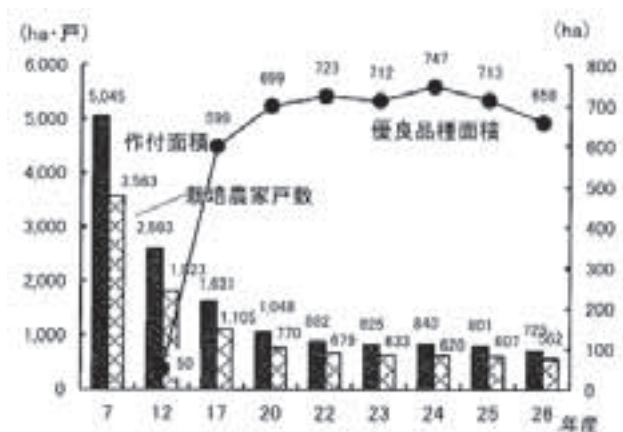
【生産の概況について】

生産農家の高齢化や他作物への転換等によるいぐさ栽培の中止、畳の需要の低迷など、厳しいいぐさ生産情勢の中で、熊本県の平成27年産いぐさの生産は、687haとなっています。栽培面積のピークであった平成元年の6,630haと比較すると、当時の10分の1にまで縮小しています。

また、栽培農家536戸についてもピークであった昭和47年の10,400戸から20分の1となっており、これらの数字からい業情勢の厳しさが感じ取れます。

最盛期にはいぐさは「緑のダイヤ」と称され、県内農業算出額の1割を占める主要な作物でしたが、現在は前述のように減少しています。

こうした中、現在、熊本県では県育成のオリジ



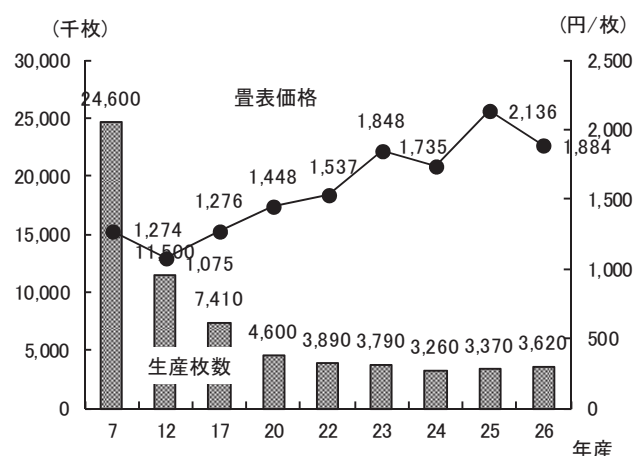
資料) 県農林水産部調べ

ナル品種「ひのみどり」「夕風」「ひのはるか」を育成し、作付を拡大した結果、3品種合わせた作付面積は全体の9割を占めています。また今後は「涼風」をこの中に組み合わせ、栽培面積の維持と収益の向上に向けた取り組みを進めています。

【畳表生産枚数および価格】

平成26年産の畳表生産枚数は3,620千枚で、前年と比較して7%増加しています。

なお、畳表の価格については、平成12年以降上昇傾向にありましたが、平成27年6月までは月平均価格が低下していました。今後は畳表の価格維持が課題となっています。



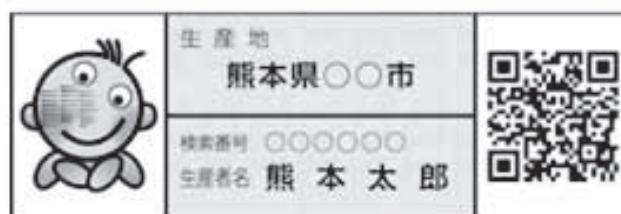
資料)農林水産省、経済連、JAやつしろ調べ

3 熊本県の実践について

熊本県では産地の構造改革を着実に進めるため、関係機関と一体となって生産対策・流通対策・消費対策の各事業に取り組んでいます。

具体的には、高品質化による輸入品との差別化を明確にするため、“国産畳表は「くまもと畳表」”との認識から、QRコードによるトレーサビリティシステムを付加した「くまもと畳表」の表示拡大を図っています。このため、県事業により、QRコード付タグ(右上写真)装着装置の導入を支援し、畳表への挿入率100%に取り組んでいるところです。

また、新品種「涼風」の導入や「担い手対策」等産地の維持のための構造改革を行うなど、農業団体と行政が連携して生産から流通販売にわたる対策を総合的に実施するとともに、いぐさ・畳表



QRコード付タグ

の生産・加工対策に取り組む産地・組織を支援しているところです。

4 最近の取り組みについて

近年は需要増加への取り組みとしていくつかの事業を実施したところです。今後も産地維持と併せて消費対策の事業を実施したいと考えています。

主な事業について、

【「ミラノ国際博覧会」いぐさ・畳表PR事業】

県産畳表等の新たな需要の創出を目指すため、平成27年5月から開催されるミラノ国際博覧会において、産地と連携したいぐさ・畳表の情報発信を行う取り組みを支援しました。ミラノ国際博覧会場内の日本館内に、「いぐさ・畳表ベンチ」を設置し、国内外にPRするとともに、本県を含む関連5県で出展を行う世界農業遺産PRとの相乗効果を狙うことを目的として実施しました。



【地産地消の家づくり推進事業】

県内住宅関連産業との連携による地産地消条例

の県民への浸透と実践、県産木材と併せて県産畳表の需要拡大と QR コード付タグ挿入畳表の認知度向上を図るため、県内において新築、リフォームした施主に対して一戸当たり 8 枚を上限に県産畳表（畳に加工すること）を提供する事業。併せて 3 世代住宅の新築及びリフォームを実施する者に対して、一戸当たり 12 畳を上限に県産畳表（畳に加工すること）を提供する「くまもと 3 世代住宅支援事業」も実施しています。

【熊本県産畳表プレミアム付商品券発行事業】

熊本県内における県産畳表の消費拡大を図るため「熊本県産畳表プレミアム付商品券」を発行しています。この取組を通じて、安全安心で品質の高い、県産畳表の良さを消費者に実感していただくとともに、県産畳表の証明である QR コード付タグの認知度向上も図ります。

10,000 円で 12,000 円分使える商品券で、県産畳表を使用した新調、張替工事に対して使用可能な商品券です。

初回の発行数 20,000 枚は、予約開始と共に購入が殺到し、7 月 31 日現在で完売となりました。そこで、新たに 1 万枚を 9 月 24 日から販売することになっています。



5 最後に

今後も、優良品種の割合を高めることで、くまもと畳表の高品質安定生産を維持しながら、国産畳表のシェアを拡大すると共に消費者に信頼される国産畳表の安定供給に努め、日本でも随一のいぐさ産地としての業務を果たし、日本文化の象徴である畳文化を守っていきたいと考えています。